



与那原東小だより

令和7年11月26日(水)

与那原町立与那原東小学校

文責 校長 砂川 充

学校教育目標 ○進んで学びよく考える子 ○ゆたかな心の子 ○進んで実行する子 ○たくましい体の子

地震・津波避難訓練

自分の命は自分で守る

11月5日(水)の10時に与那原町広域避難訓練として、地震・津波避難訓練が行われました。雨が降っていたこともあり、当初計画していた日の出園、丸大屋上駐車場への20分以内の避難ではなく、校舎3階への垂直避難を行い、幼稚園児、児童、職員を含む800名余りの避難訓練を実施しました。6分で全児童、幼児、職員の避難が完了しました。3階のフロアーに800名が避難できることも確認できました。

この地震・津波避難訓練は、沖縄県広域地震・津波避難訓練として与那原町内でも実施されています。地震・津波に対する防災意識の啓発や防災体制の向上を図ることを目的として実施されているものです。

前日には、校長講話として、「逃げる訓練は大切」というテーマで講話を行いました。講話では「自助」「共助」「公助」について話をし、特に「自助」として「自分の命は自分で守る行動をとる」ことを伝えました。

当初の地震・津波避難訓練の計画では、シェイクアウトを1度行ってから避難することが計画されていましたが、地震は何度もやってくることから、余震が続くことを想定し、3回のシェイクアウト訓練に変更し、停電になっていること、一部建物が損壊していることの想定に計画を変更して避難訓練を行いました。さらに、津波の高さが5m～10mで、27分では到達すると想定されていたので、学校から海拔15m以上の高台へ向かうためには、どうしても国道331号を横断する必要がある、どのようにしたら800名余りの幼児、児童、職員が4車線の道路を速やかに横断することができるのか何度も話し合いました。実際には、垂直避難となったことから道路の横断はありませんでしたが、次年度につなげたいと考えています。

子どもたちには、実際に避難することになったら、津波から逃げた後を想像してほしいと伝えました。家に帰れないかもしれないことや、水や食事が届かないかもしれないこと、トイレが利用できないかもしれないことも想像して、ふり返りをしてほしいと話しました。

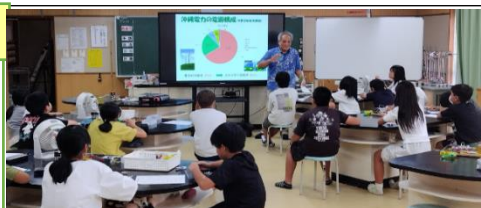
ご家庭でも、地震・津波の際の避難経路、待ち合わせ場所など話し合われてください。



校内研修 幼小連携 架け橋期のプログラムについて



沖縄県義務教育課幼児教育班の赤嶺指導主事を招聘して幼小連携の校内研修を行いました。幼児教育は「人格形成の基礎」「生きる力」の基礎を育むと言われています。幼児教育を理解し、円滑な接続を図ることが求められています。



5年生 地球温暖化対策を考える
琉球大学名誉教授 工学博士の清水洋一氏を講師にエネルギー教育の授業が行われました。